

医療の安全における安全心理学・安全行動学の勧め

医療安全心理・行動学会理事長
国際医療リスクマネジメント学会理事長
医療安全推進機構理事長
酒井亮二

安全学の一つに品質管理学がある。その究極はどんな人間が使用しても無事故な機械を製造することにある。高度な品質管理によって多数の優れた製造物が生み出されている。それによって、ドイツや日本からの製品は世界から高い評価を得ている。品質管理はモノづくりの世界で大成功を取めている。世界一の水準のモノづくりは戦後の日本経済の主力エンジンであった。

医療界も多数の機械と化学物質による作業が存在する。したがって、人とモノのインターフェースの安全性を構築する品質の向上は不可欠である。医療の安全にも品質管理の考え方は基本とされている。

他方、医療の現場では人とモノの関係による作業のほかに、人一人の協業による多数の作業が存在する。それには医療者と患者・家族の関係だけではなく、多職種での連携という人間関係も存在している。そして、英米日本からは、医療事故・医療ミスの7割程度が人間関係のコミュニケーション・エラーという報告が存在する。したがって、医療の安全において人-モノ関係での品質管理だけを見ているだけでは全く不十分である。

人-人の協業での安全性は、人間の心理と行動での安全性を強化する事によって達成できる。したがって、安全心理学と安全行動学が医療の安全には不可欠である。

医療以外の分野では安全心理学と安全行動学が盛んです。そのため、今般、医療安全心理・行動学会を設立させていただきました。医療の安全において世界最初の本学会で、日本における医療安全文化が将来に世界一になると確信した。